第1回 みんゆう新聞感想文コンクール 最優秀・優秀作品

各部門の入賞者

◇小学3・4年生の部

▽最優秀賞
宮原　由気人（原町二3年）

▽優秀賞
佐藤　剣晋（川俣町飯坂4年）
村田　奈々（桜の聖母4年）
溝井　杏実（大笹生4年）

▽入選
伊藤　絢香（福島大付属3年）
橋本　奈瑠美（原町二3年）
八島　亮太（川俣町飯坂4年）
松本　みなみ（城西4年）
桑原　絢（坂下4年）

◇小学5・6年生の部

▽最優秀賞
久間木　壱成（福島一5年）

▽優秀賞
鈴木　啓太（蓬莱東5年）
深谷　菜乃佳（桜の聖母5年）
門馬　千乃（小高6年）

▽入選
渋谷　岬陽（渡利5年）
助川　拓哉（桃見台5年）
伊藤　匠海（西袋一5年）
菊地　貴公（福島三6年）
八城　美和（桜の聖母6年）

◇中学生の部

▽最優秀賞
那知上　嘉海（喜多方一3年）

▽優秀賞
佐藤　由輝（会津学鳳1年）
森川　沙紀（原町一1年）
加羽沢　梨紗子（若松四3年）

▽入選
江見　春希（会津学鳳2年）
松原　美紗（平三2年）
宮原　理為智（原町二2年）
宍戸　若緒（福島一3年）
皆川　友梨（東日大昌平3年）

◇学校賞

桜の聖母小（福島市）
会津学鳳中（会津若松市）

素直な感性で表現

◆最優秀賞（小学3・4年生の部）
「自然を大切に」

原町二小3年　宮原　由気人君

「地球上の水をバケツ一杯分とすると、生活排水はどのくらいの量でしょう？」

これを読んだ時、ぼくはバケツ半分くらいかなと思いました。水はご飯の用意やせんたく、おふろなどで毎日使っています。ぼくの家だけでもこんなに使うのだから、全部の家や工場で使う水を合わせたら、とてもたくさんになると考えたからです。でも、答えは「スプーン一杯」。たったそれだけ？と思いました。しかし、そのたった一杯のスプーンの水が、地球をよごしているというのです。石油から作ったせんざいなど、自然の中で分解されないものを使っていることが原因なんです。

「自分たちが便利で快適な生活を送れたら、海や川が汚れても構わないのかな」という谷村さんの言葉。それを見て、「自然はぼくのたからもの」という別の日の記事を思い出しました。エスカレーターやせんたくきなど、今の生活は便利になっていますが、毎日たくさんの服をせんたくをするお母さんは、せんたくきがなかったらきっとこまるでしょう。エスカレーターも、お年よりや体が不自由な人にはあったほうがいいと思います。このように助かる人も出てくるので、便利になるのはわるいことだけではありませんが、必要なのは使いすぎたり、むだにしたり、自然が分解できないものを使ったりすることです。便利になっても、そのせいで自然がだめになっていくのはいけないと思います。

地球がよごれてこまるのは、ぼくたちです。「地球の問題はみんなの問題なんだから」という言葉を忘れず、水の使い方や自分が使う物にもっと気をつけて、家族みんなで自然をよごさないように考えていこうと思いました。そのためにも、これからは自然についての記事をもっと読んでみようと思います。

◆最優秀賞（小学5・6年生の部）
「新聞との出会い」

福島一小5年　久間木　壱成君

ぼくが自分から新聞に目を向けるようになったのは、小惑星探査機・はやぶさに関する記事を探すためでした。

それまでは、いくら父から「難しくて分からなくてもいいから、新聞に目を通す習慣をつけろ。」と言われても、全く興味がなく、テレビらんすら見ようとしませんでした。

ぼくがはやぶさに興味を持ったのは「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」という映画を見たからです。そして、そのことをきっかけに、はやぶさの新聞記事を見るようになりました。

はやぶさが地球へ帰還する日、六月十三日には、無事に地球へカプセルを送りとどけてくれますように、と願っていました。

六月十四日の新聞の一面に、「はやぶさ帰還」という大きな見出しを見つけました。ぼくの目は新聞にくぎ付けになりました。

はやぶさが、目的地であるオーストラリア・ウーメラ砂漠への着地に成功したことを知り、ほっとしました。カプセルと、ヒートシールドは、無事に回収され、現在慎重に中身を調べているようです。大陽系誕生の謎を解く、大発見の可能性もあるので、ぼくはとても期待しています。はやぶさは、燃料漏れなど、数々の困難を乗りこえ、七年もの歳月をかけて地球へ帰還しました。日本の宇宙技術の高さに、ぼくはとてもおどろきました。

はやぶさの情報を得ようと、テレビのニュースを見たり、新聞をすみからすみまで見たりしました。本も買ってもらいました。

新聞を読むことで、日々の正確な情報が手に入り、自分の知しきがどんどん豊かになります。これからも、興味のある分野から新聞を読んでみようと思いました。

◆優秀賞（小学3・4年生の部）
「もみじマークの変更」

川俣・飯坂小4年　佐藤　剣晋君

高れい運転者の「もみじマーク」と書いてあって、「しゅん、えっ、と思いました。ぼくはずっと「かれ葉マーク」だと思っていたからです。みんな、どう見てももみじには見えない、と言っていると思います。ぼくみたいな人は多かったようで、デザイナーの松山さんが、幸せのしょうちょうの四つ葉のクローバーがシニアのSをつつむデザインを考えて決まったと書いてありました。活発な高れい者をイメージした色を使っているそうで、「四つ葉のクローバーマーク」は明るくて感じがいいなと思いました。

お母さんは、もみじマークは今ではずいぶん定着しているから、変更になるのはいいことなのかなとは思ったけど、デザインはなかなかいいんじゃないか、という意見でした。

お父さんは、もみじマークは高れい者のなみだみたいだったけど、今度は幸せの四つ葉だから、みんなから愛されそうなイメージなんじゃないかと言っていました。おじいちゃんは、まだまだ元気だから、どっちにしろあんまり付けたくないな、と言っていました。

もし、ぼくが車を運転していて、このマークが付いた車が前を走っていたら、その車の速さに合わせて走りたいと思います。今までは、「このもみじマーク、おそいなあ」なんて言っていたけど幸せの四つ葉マークだったら、なんとなく、見守ってやりたいような気がします。みんながよいんしょうをもってこのマークを見て、高れい者の事こがへったらとてもいい事だと思います。

まわりの車がマークを見て気をつけることも大切だけど、運転している高れい者が、若若しさを表す黄緑と緑、ゆたかな人生経験を表す黄とだいだい色の意味をいしきして、安全な運転をしてほしいと思いました。

◆優秀賞（小学3・4年生の部）
「悲しい事件」

桜の聖母小4年　村田　奈々さん

大阪市西区で起きた死体遺棄事件で、幼児二人の遺体が見つかりました。逮捕された母親は、「食事を与えたり、お風呂に入れたりするのが嫌になった。子供なんかいなければよかった。自分の時間が欲しかった」と言います。子供を産んだことは、「子供といっしょに楽しく生活したい」と言っていたのに、子供を置き去りにしてしまいました。

私は、この事件で、自分が産みたいと思って産んだのに、子育てが嫌になったなど言ってはいけないと思いました。それは、親は自分の子供の責任を負わなくてはならないからです。次に、そんなに自分の時間が欲しかったら、二人の子供を父母の家に預けたり、児童相談所へ相談に行ったりすればいいと思います。そうすれば、子供の命を助けることが出来ます。

私がもし、親の立ち場なら、自分が産んだ子供の責任を負うことを絶対に守ります。それに、食事を与えたり、風呂に入れるという最低限のことは子供に対しての愛があれば絶対に出来ることだと思います。他のことも同じです。事件を起こした母親は子供への愛が足りなかったのだと思いました。

私は父母に愛というものをもらって産まれ、今日ここまで生きてきました。うれしいことがあった時はいっしょに笑って、悪いことをすれば怒ってくれ、悲しい時にはいっしょに涙を流してくれます。その優しさ、私のことを思ってくれる心こそ、真の愛というものだと感じています。私が大人になって親になったらその愛をたくさん与えたいです。

この事件で、子供に対しての愛が必要なこと、父母にどんなに愛というものをもらったか、深く考えることが出来ました。二度と起こってはいけない事件だと思いました。

◆優秀賞（小学5・6年生の部）
「高れい者の交通事故防止のために」

蓬莱東小5年　鈴木　啓太君

「これはいいマークだ。」

ぼくは、高れい運転者マークが新しくなるという記事を読んで、そう思いました。そして、ぼくのおじいちゃんが、今度こそマークを付けてくれると思いました。

今までの高れい運転者マークは、もみじの葉が「かれ葉」をイメージさせるということで、高れい者からいやがられていたそうです。

ぼくのおじいちゃんは、七十五才ですが、今でも会社で働いていて、休みの日になると、山登りやゴルフをするほど、とても元気です。そんなおじいちゃんは、今の高れい運転者マークがいやだったそうで、車にマークを付けていませんでした。おじいちゃんのように、マークを付けた方がよいのに、付けていない人は、とても多いのではないかと思います。

でも、交通事故のニュースを聞くと、高れい者の事故がとても多く、ぼくは、おじいちゃんが事故にあわないか、いつも心配していました。

高れい者になると、気持ちが低下しているので、それが原因で事故を起こしやすくなるそうです。

だからこそ、高れい運転者マークが必要だと思います。このマークは、周りの運転手に注意をよびかけるものだそうです。マークを見つけたら、周りの運転手が思いやりの気持ちを持って、やさしい運転を心がければ、交通事故を防ぐことができると思います。

新しいマークは、四つ葉のクローバーの形をしていて、若々しさと経験を四つの色で表現し、活発な高れい者とイメージしたそうですが、ぼくのおじいちゃんにぴったりだと思いました。ぼくは、おじいちゃんに、新しい高れい運転者マークを付けるようにお願いしたいと思います。

◆優秀賞（小学5・6年生の部）
「終戦記念日」

小高小6年　門馬　千乃さん

「不戦の誓いを新たにし、戦争の惨禍を繰り返すことのないよう、世界の恒久平和の確立に全力を尽くす」この誓首相の言葉を読んだ時、私はその言葉を絶対に守ってほしいと強く思いました。

それは、以前おばあちゃんやお母さんに戦争の話を聞いた時、戦争は恐ろしいと感じたからです。住んでいる隣の町に、飛行場があってばくだんが落とされたこと。ひいおじいちゃんが、軍人で戦場に行ったこと。特攻隊とは、片道分の燃料しか入れないで、外国に飛行機に乗ってつっこむ人達のことだと言うことなど。また食べ物には苦労したこと。そういうことが今起こったらこわいからです。

記事には、「戦死した軍人二百三十万人と空しゅうや原ばくで亡くなった一般市民八十万人」と書いてありました。そんなにたくさんの人が国と国とのけんかにまきこまれて、亡くなってしまったのがとても悲しくなりました。改めて、二度と戦争は起こしてはいけないと思わせる数字でした。原子ばくだんを落とされたのは日本だけ。だからこそ、日本が先頭に立って平和を呼びかけていかなければいけません。

戦争をくり返さないために、大切なことは、国と国とが、もっと話し合いをすることです。けんかをした時に、暴力をふるっても、解決はできません。だからこそ、納得するまで、話し合いをしなければならないのです。もう一つ大切なことは、戦争のことを語りついで行くことです。多くの人が、戦争とは、どんな事だったのかを知り、悲しい戦争を二度としないようにすることです。

終戦から六十五年目をむかえた今日本で戦争がないことがとてもうれしいです。全世界に戦争のない平和な日がくると願っています。

◆優秀賞（小学5・6年生の部）
「新聞バッグでエコの広がり」

桜の聖母小5年　深谷　菜乃佳さん

高知県の四万十町の道の駅「四万十とおわ」で、地元の主婦の方々が、古新聞を再利用したマイバッグを作り話題になっているというものです。私は、「ダブルのエコ」だと感心しました。私も、学校では牛乳パックを資源回収に出したり、家庭では外出する時必ずマイバッグを持っていくなど、少しでもかんきょうに良いことをしようと心がけています。ビニールぶくろを燃やすと二酸化炭素がはい出されるため、地球温暖化が進んでしまいます。しかし、古新聞バッグはとてもかんきょうに良いと思いました。

この記事の中でおもしろかったのは、高知県のお茶を売り込もうとしたのに、そのお茶を入れた新聞バッグの方が注目されたということです。そして、さらに外国の美術館に輸出されるまでになったそうです。どんなにすてきなバッグなのだろうと、私は見てみたくなりました。

かんきょうを大切にしながら、新聞バッグのように「考え方」を発信するというこのような取り組みが、世界中に広がってほしいと思います。そして、地球温暖化が少しでもおさまってくれればと思いました。そして私も、かんきょうを守るために何か良いアイデアを生み出したいです。